

日本の真実のショート・ストーリィを考えてみませんか？

<http://nezu621.blog7.fc2.com/blog-entry-1168.html> (2011/02/12 UP 1/1)



日本の真実のショート・ストーリィを考えてみませんか？

「人は物語の中に生きていく」という言葉があります。歴史などはその典型で、その場に居合わせた当事者ではない私たちは、史実を物語として知り、受け入れ、消化します。私たち個人も、私たちの所属

する社会も、事実も、ちりじりとなった切片です。様々な出来事が起こり、その様々な出来事が大きな流れとなって今が生まれ、未来へと流れて行きます。

よく「歴史認識」といいますが、それは「歴史上に起こったさまざまな出来事を、ひとつの「物語」として「認識」することなのかもしれません。

これを悪用しているのが特ア三国です。たとえば中共のもつ歴史認識は以下のようなものです。

我々はかつて、国土を残忍で暴力的、かつ強姦魔であった日本によって蹂躪された。

日本人は赤子を放り投げ、銃剣で刺殺し、婦人を犯した。そのために立ち上がったのが、人民解放軍である。

人民解放軍は、抗日戦線を戦い、中国国民に平和と幸福をもたらした。

言ってることはデララメです。しかしいまの支那人は、よほど教養のない人でさえ、そう信じて疑わない。

こうなるとそれは、その作られた物語を信じるか信じないかの問題になる。

南京虐殺も、日帝が中国全土に埋めたとされる毒ガス兵器も、彼らにとってはすべて、その物語の延長線上にあり、彼らの作った物語を補完する材料となっているといえます。

そうなると、いくら日本から経済援助や技術援助を得たとしても、それは戦前の日本の非道に対する補償となり、支那に対して日本が奉仕するのはあたりまえであって、礼すらも不要、という理屈になります。

北朝鮮も、似たような物語です。金日成が、抗日の英雄です。韓国も、似たような筋書きです。

かつて朝鮮半島には李氏朝鮮という、この世の楽園があった。そこでは華やかに着飾った美しい女官たちが舞い、庶民生活には争いのない豊かで平和な社会だった。

そこへある日突然、日帝が攻めてきて朝鮮半島の民衆から、生命や財産、国家はおろか、姓氏さえも奪った。

そして朝鮮半島に住む国民を奴隷のように使役した。第二次世界大戦後、我々は日帝を追い出し、平和で豊かな韓国社会を築いている。

これまたいちからじゅうまでデララメもいいところです。けれども、こうした考えが、韓国統治のすべての出発点になっている。

対する戦後日本はというと、これまた怪しげなストーリーしか、いまの日本にはありません。

日本はかつて、東亜を侵略し収奪と悪逆の限りを尽くした。その結果、原爆を投下され、戦争に負け、裁判によって首謀者たちは処刑された。

戦後の日本は過去の過ちを反省し、世界から平和憲法をいただき、その平和憲法のおかげで、私たちは経済的繁栄と長寿を手に入れている。

世界に国境はない。世界に奉仕するのは過去に過ちを犯した日本の当然の務めである。

ポッポや、カン、センゴクなどは、なまじ、頭の良い優秀な生徒だったから、こうしたデララメな筋書きを頭から信じ込み、その筋書の通りに生きてきた。

あまりに強くその筋書きを信じ切っているから、だから自分たちがいま、政治家として世界の中でどれだけアホなことをしているかさえ、わからなくなっている。

ただし、デララメであれなんであれ、国家の根幹となる歴史認識の「物語」は、そのわかりやすさゆえに、多くの人々に強い影響を与えます。

ならば、保守が保守として、真実の「物語」を、作ってみませんか？ というのが、本日のお題です。

特ア三国や戦後左翼のように、嘘やデララメの「物語」をつむぐ必要などありません。

日本は、良心に従って真実を述べるだけで、世界に通用する素晴らしい歴史と伝統と文化を持った国なのです。

ただし、その「日本の真実の物語」は、長い言葉やむづかしい表現であっては、訴求力にかけてしまいます。

誰にでもわかるやさしい言葉で、かつ、誰にでもストンと理解できる内容である必要があります。

そしておそらく、その「物語・真実の日本」は、世界の平和を愛し、人を愛するすべての人々が希求する、まさに世界が待ち望み、日本が、日本人が国家観を取り戻すための起点となる「物語」となるものです。

それが誰にでもわかりやすく、ハートに響く「物語」なら、それは必ず日本の「常識」となり、世界の「常識」となる。

そして多くの人々に影響を与えることで、日本は変わる。「物語・真実の日本」は、わかりやすく、ほんの数行で語る新しい日本の「常識」です。

いかがでしょう。そんな短くて、わかりやすく大切な、ほんの数行の「物語・真実の日本」を、みんなで考えてみませんか？

以下は参考までに一例です。

暴力が世界を支配した19世紀、日本はアジアでただ一國、人種の平等を唱えた。

ロシアを破った日本は世界の最強国となり、植民地支配に苦しむ周辺諸国民に教育、産業、農業を与え、仁政をひいて植民地からの自力独立をサポートした。

これに怒った欧米列強と日本との間で起こったのが大東亜戦争である。

日本は、戦争に敗れ、国土を焼け野原にしたけれど、20世紀における諸国の植民地からの解放と民族独立、人種の平等を実現した。

これは、あくまでも一案です。もっとわかりやすく、もっと胸に響く内容に補強していく必要があると思います。

みなさまは、どのような「物語・真実の日本」をお持ちでしょう？

短い言葉で、それをお教え願えればうれしいです。